

# 政策決定プラットフォーム資料

～電気通信市場の環境変化への対応検討部会～

座長 山内 弘隆

# これまでの部会における主な意見

## 構成員からの意見

- 政策により達成したい理念を設定することが重要。理念では、「アクセスの自由」(情報へのアクセス、希少資源へのアクセス)が重要な概念。  
また、イノベーションの自由、ユーザー参加の自由や人間の本来の特性に根ざした理念(クオリティ・オブ・ライフの追求)といった概念も必要。
- ユニバーサルサービスについて、環境変化の中でどこまで拡張するか、費用負担をどうするか。
- 世界の主戦場たる上位レイヤーと連動した議論が必要。
- ライフログ(パーソナル情報)やジオメディア(地理情報にひも付いたWebサービス:ストリートビュー等)に対する規制の在り方についての議論は重要。
- 情報の価値化(例:集合知・識別知)に対する社会的合意形成が必要。

## 事業者・団体等からの意見

- 国内競争が起きると、国際競争力が高くなるという関係にはないが、競争がないと何も生まれない。
- 海外での競争力のためには、Entrepreneur(起業家)の精神が重要。
- 下位レイヤーの競争力が、上位レイヤーの競争力と関係するか否かは、両論あり。
- ブロードバンド普及100%を目指すべき。
- 携帯電話やFTTHの料金は、更なる低廉化が可能ではないか。
- 移動通信分野のアンバンドル化、インターフェースのオープン化が必要。
- ユニバーサルサービスの見直しについては、その対象やコスト負担などに関するコンセンサスが必要。
- ユニバーサルサービスについては、NTTにメタル回線の扱いに関する方針がないことが最大の問題。
- ドミナント規制の厳正化が必要。
- 電話を前提としたルールを見直し、ユーザーニーズに応えられるルール作りが必要。
- NTTの組織問題についてもしっかりとレビューすることが必要。

## 今後の検討の方向性(案)

IP化、ブロードバンド化、モバイル化が進展し、上位レイヤー市場の重要性が高まる中で、今後の市場環境の変化や技術の動向等を見据えつつ、以下の方向で、検討を進めることとする。

① まずは、政策により達成したい「理念」を設定し、

<理念の例>

- アクセスの自由
- イノベーションの自由
- クオリティ・オブ・ライフの追求

② 次に、「理念」を実現するための「目標」や「政策」を設定する。

(この際、「過去の競争政策のレビュー部会」における検証作業とも連携を取る。)